



金蘭会Tokyo

金蘭会東京支部会報

May 2019 No.26

編集・発行 金蘭会東京支部 (大阪府立大手前高等学校同窓会)
事務室 設楽・阪本法律事務所内
〒104-0061 東京都中央区銀座 6-7-2 みつわビル 3F
http://www.kinran.tokyo/

平成最後の支部総会を 新装なった日本青年館ホテルで

平成30年7月8日(日)、新装なった日本青年館ホテルにて、第94回金蘭会東京支部総会が開催されました。平成最後の支部総会で、一つの節目となりましたが、昭和20年卒の大先輩から新社会人3名と卒業したばかりの大学1年生まで幅広い年代の同窓生の方々178人のご参加を得ることができました。



このイベントに因んで楽器名が付され、格調高くもお洒落な感じを醸し

出してくれました。

音楽演奏

で会場が非常に和んだこともあり、参加者はリラックスして



歓迎されていたようです。料理は、デザートを含め質量ともに満足のものだったと思います。

今回の当番幹事となる昭和63年卒も参加して、第95回総会開催に向けた意思を力強く表明してくれたので、皆さんへご期待。

当番幹事を終えて

藤野 貴之(昭和62年卒)

今回の第94回総会準備は、次年度に当番幹事を控えた第93回総会に、62年卒組の同期10人が出席したことからスタートしました。多くの同級生が声掛けに応じてくれて、大阪組を含めた31人が幹事役を引き受けてくれました。

1年間の準備期間、古部君がイベントの出演依頼を早々に快諾してくれたお陰で、残る大きな仕事

光栄でした

古部 賢一(昭和62年卒)

今回我々が幹事学年ということで、職業柄事務作業等に疎い私としては、本業である音楽演奏によってこの会に幹事の一人として協力出来たことは大変に有難い事でした。

オーボエとクラシックギターという音量が小さい楽器デュオが、再会に盛り上がりつつおられる先輩方のお耳にどこまで届く

は、日程調整、会場選び、会員への案内でしたが、案内状送付に関わるweb関係では、慣れない作業を色々と助けて貰いました。

会場の日本青年館ホテルは、オーブン直後の為に、料理やホテルスタッフの対応など少し不安な部分もありましたが、打ち合わせ、試食会でのスタッフやシェフとの活発な意見交換や、総会当日の受付業務、御年配の方々のテーブルへの気配りなど、幹事役が一体感のあるホスト役を務めてくれました。至らぬこともあったかと思いますが、終宴後に、参加された方々から演奏や運営が「良かった」との声を頂き、嬉しい限りでした。

幹事役や63年卒組のサブ幹事の皆様に支えて頂きましたこと、深く感謝しております。ありがとうございます

たかは甚だ疑問ではあります
が、皆さまが楽しんでくださったとすればこんなに光栄なこと
はございません。ありがとうございます



古部さんと鈴木さん

ございました。また、ご助言くださいました諸先輩方、心より御礼申し上げます。

次回金蘭会総会にて、皆様と再会することを楽しみにいたしております。



当番幹事学年のみなさん

ラグビーと共に歩んだ人生ーラグビー・ワールドカップへの期待も込めてー



元早稲田大学ラグビー部監督・元ラグビー日本代表監督

横井 久さん

(昭和 26 年卒)

私のラグビーとの関わりは、旧制・北野中学校時代にまで遡りますが、新制・大手前高校に移ったところ、当時、大手前にはラグビー部がなかったため、競技を続けたかった私は、大手前高校でラグビー部を創設したのです。ちなみに、私は6人兄弟で、長兄を除く5人が全員大手前高校に入学しています、母校とのつながりは極めて密接です。

大手前でラグビーにも打ち込んだ私は、早稲田大

学と関西学院大学の試合を見て、早稲田大学でラグビーを続けたいと思うようになりました。父親からは、関西の大学進学を勧められたものの、想いは断ちがたく、現役合格失敗後の再チャレンジで早稲田大学に首尾よく合格しました。大阪市立大学も合格しましたが、気持ちが東京に向かっていた私は早稲田大学入学を選択し、希望通りラグビー部にも入部して、明治大学や慶応大学等のライバルと鏖をけずりました。

大学卒業後も入社した横河電機でラグビー競技を続けましたが、入社2年後に一念発起してニューヨーク大学大学院留学を決心し、NYに旅立ちました。流石にNYでラグビーをすることは思っていなかったものの、現地知り合った日本人(青山学院大学野球部OB)がラグビー愛好者で、早大ラグビー部で頑張っていた私をよく知っていたので、ラグビーが縁で懇意になりました。しかも、不思議なことに、その人の紹介で、アメリカでも大学やクラブチームで行われていたラグビーと関わりま

す。NYのクラブチーム(マンハッタン・クラブ)に入った私は、キャプテンとなり、アメリカ・イスタン・ユニオンの代表選手としてカナダ遠征も果たしたわけです。自分でも予想外の展開でした。

2年半後に帰国して横河電機での勤務を続けつつ、早稲田大学ラグビー部監督に就任し、指導者としての途を歩み始めます。早大ラグビー部監督としては、1965年に、大学日本一だけでなく、社会人チームを打ち負かして早大ラグビー部を初の全国優勝に導くことができました。その後は、日本代表監督を3度歴任し、日本ラグビーの強化に関与してきました。これも忘れ難い思い出であり、私のラグビー人生の大きな足跡です。

思い返すと、このように私とラグビーの結びつきは強く、私の人生を導き彩る大きな道筋になっているようです。今年は日本でラグビー・ワールドカップがあります、長年このスポーツ競技に関わってきた者として、血沸き肉躍るような日本チームの活躍を大いに期待しています。

世界平和のために文学を



作家 石井遊佳さん

(本名 石井陽子/旧姓・小菅) (昭和 57 年卒)

芥川賞受賞当時、インドにおられたということですが…。

私は二〇一五年、夫と共に南インド・チェンナイへ行き、某IT会社で日本語教師として働き始めました。その時点より、まさしく私のデビュー作「百年泥」の主人公同様の惨状に陥った訳です。二年半ほど四苦八苦した後たまたま仕事が二、三か月空

き、それまでのチェンナイでの経験半分妄想半分で書きあげたのが先の「百年泥」、この作品で新潮新人賞、さらにその数か月後、同じ作品で芥川賞に選ばれたという報はチェンナイにて電話で受けました。一では、大手前高校時代の印象的な思い出を願って致します。

高校入学直後、二、三か月で勉強に関しては諦念に達し、猛烈な勢いで小説を読み始めました。最初に三島由紀夫を十冊、次に一人一冊シリーズ、例えば安部公房や高橋和巳、開高健などを一冊ずつ読み、急激に世界が開けていきました。大阪城の見える窓ぎわの一番前の席で、時おり大阪城を眺めつつ本を読んだのが当時の映像的記憶として残っています。朝のHRのさい、ふっと担任の森延哉先生が近寄って来られ「何読んでるの?」「三島由紀夫です」題名をお見せすると、「ほっほお」というお顔で教壇の方に戻って行かれました。かけがえのない時間だったと思います。

突然ですが、「文学」とは。石井さんの御見解をお伺いします。

徹底的に自由で不道徳かつ野蛮なジャンル、それが文学です。文学を読む、それは自分とは全く異なる他者の意識に入り込み、瞬間には想像もしていなかった非日常を生きることです。それゆえ文学内時空において根源的思考が可能となり、異質の文化を受容する訓練を積むことができる。つまり、文学は世界平和に寄与するもの、という言い方もできる。人と人はなぜ殺し合うのか、語弊を恐れず言い切ってしまう、それは他者への想像力の問題だからです。「世界平和のために文学を」、これが私の主張です。

現在の御活動の状況は。

夫はまだチェンナイにいますが、私は大阪で創作活動に励む毎日です。現在執筆中の小説は、第三作目にして初の日本を舞台にした作品、目いっぱい楽しんで貰えるよう全力を尽くします。応援、どうぞよろしくお願い申し上げます!

1963年大阪府生まれ。東京大学大学院人文社会系研究科博士後期課程満期修了。20代よりさまざまな職業を経巡りつつ小説を書き続ける。2015年よりインド・タミルナドゥ州チェンナイで生活し、夫とともに現地のIT企業にて日本語教師として働く。2017年、チェンナイでの教師生活や洪水の経験をもとに執筆した「百年泥」で第49回新潮新人賞受賞。2018年、同作で第158回芥川龍之介賞受賞。現在大阪在住。

早稲田大学商学部卒業後、横河電機入社。現役時代(特に大学・社会人)は、好センターバックとして名を馳せる。指導者としても、早稲田大学ラグビー部・日本代表チームの監督として手腕を発揮。母校との関係では、大手前高校ラグビー部創設の立役者の一人。
※昨年、大手前高校ラグビー部は創部70周年を迎えました。(編集部注)

サッカー部OB会、初の遠征試合を実施

白石 吉行(昭和55年卒)

桐蹴会(サッカー部OB会)

関東支部は年々、活動の幅を広げています。昨年10月には栃木県市貝町にて、初めての遠征試合を実施しました。JR宇都宮駅から車に分乗して約30分、SLの汽笛が聞こえる壮大な天然芝のグラウンドで、地元の同好会チームと対戦しました。惜しくも負けましたが、試合後は温泉でくつろぎ、宇都宮と言えば餃子、野菜、肉、海鮮など最高の餃子とビール三昧で、昔話に花が咲きました。普段は東京都内で活動しています。サッカーは勝つためではなく、皆で楽しむことが第一です。どなたでもお気軽にご参加くだされば、楽しいひと時を過ごせること、間違いありません。



連絡先・支部幹事長 白石吉行
tousanyoshi426@ybb.ne.jp

「ザ・シンガー」

亀井登志夫さん(昭和45年卒)
のコンサートを聴いて

長岡(幸繩)恵(昭和56年卒)



コンサート

今年の金蘭会総会で亀井さんの告知で聞いたラジオ「音楽の解体新書」

に感激し、同級生3名でソロコンサートに参加しました。素敵な映像を背景にステージに立ち、ピアノと弦楽四重奏と共演。圧巻のフィンガースナップにオリジナル曲やジャズ。こんなにカッコいい音楽が！と観客を感動させ、シンガーとして、そしてプロデューサーとして亀井登志夫さんの多彩な魅力を堪能しました。

昨年二人三脚で歩まれた奥様を亡くされ、その半年後のコンサート。素晴らしい映像は奥様の魂のこもった作品と聞き、胸がいっぱいになりました。会場には大阪からお母様もお見えでした。演奏後の懇親会、疲れた顔も見せず、大阪弁で「大前最高やね」との後輩達への優

しい言葉、まさに「大人」のコンサートでした。



亀井さんを囲んで

しながわの新しい インフラを目指して

岡本 哲治(昭和57年卒)

私は30年の会社勤めの後、2017年に居住地である品川に特定非営利活動(NPO)法人「コウノトリしながわ」を設立しました。

ご承知のとおり核家族化、高齢化が進み、要介護者が健康を維持するための通院にかかる負担は、身体的にも金銭的にも非常に大きくなっています。

当該法人では、関東陸運局、東京都福祉局から運送業、訪問介護業の認可を受け、通院介助に公的介護保険を利用することにより、要介護のご利用者様の自宅から医療施設への通院介助サポートを低負担で行っています。現在、福祉車両は3台、ドライバ―は5名の体制で月約400輸送を地元の仲間を楽しみなが

ら拡げております。

気候、天候によつては輸送の苦勞もありますが、「わが子の地元品川の地の先輩」であるご利用者様の「貴重な昔ばなし」をお聞きする事も、我々ドライバーの大きな楽しみになっています。



フレッシュメンバーから一言



篠原 茜里
(平成30年卒)

東京の大学に
行きたいという
中学校からの念願がかなって上京し早3か月。新しい生活、慣れない土地、地元の友達になかなか会えない環境ということもあり、少し大阪が恋しくなっていた時期です。そんな中、大手前の同窓会である金蘭会東京支部総会の開催を知り、せっかくの機会だと思ひ参加することにしました。

当日会場に着くと数か月前に大

手前を卒業したばかりの私よりもはるかに年上の偉大な先輩方はかりで、はじめは少し緊張してしましました。しかし、実際に話をしてみるとみなさん新会員である私を快く迎えてくださり、最初の緊張が嘘のように会を楽しみむことができました。

卒業した後でも年代を超えた大手前の絆を実感することができ、大変いい経験になりました。私も偉大な先輩方に続くことができるように精進します。

●支部会計報告(平成29年度)(平成29年1月1日~12月31日)

収入の部	金額(円)	支出の部	金額(円)
前年度繰越	5,495,659	支部運営費	666,560
支部会費	206,000	(内訳)	
(内訳)		会議費	22,318
終身会費	0	事務所使用料	60,000
年会費分	206,000	会報印刷代	17,196
		会報発送代	450,873
		HP制作・通信費	5,832
		送金手数料	33,905
		雑費	5,118
総会費残金	40,883	交通費	23,000
雑収入	10,000	交際費	48,318
貯金利息	7	次期繰越金	5,085,989
合計	5,752,549	合計	5,752,549

海外だより

ちよつとドバイ

川原 誠(昭和50年卒)

選歴を過ぎての突然の赴任命令。それもドバイ。過去30年中東アフリカ地域とは無縁の職場だったので、大丈夫かなの赴任でした。でも、会社人生最後のご奉公と思ひ、気持ちも新たにドバイにやってきました。

来て最初にしたのは、馬鹿にされてはいけないということ。髭を伸ばしたことです。髭の濃いアラブ人では、髭がないと男とみなされません。また、一夫多妻のイスラム社会では、当然男があぶれるわけで、男同士のカップルも多いらしく、髭がないと狙われちゃうので。赴任してすぐラマダン(断食)が始まり、ラマダン時日没後の夕食をイフタルといいますが、アラブ料理に慣れようとこちらの



アラブ人になった気分@誕生日会

パーティーなどのイフタルに参加しました。こちらはアラブ料理を思っているのですが、デューラーは日本人の

お客が来てくれたとわざわざ寿司を出してくれます。ところが、これが暑い昼間に握ったように、食べる前から腐った匂いがぶんぶん。彼らは寿司を食べるわけがなく、食べる、食べると思めてくれます。おなか壊しても仕方ないかと意を決してマグロを食べました。果して結果は：今でも困るのが、中東や北アフリカのイスラム圏のお客様を訪問するところへ行ってもデーツ(なつめやし)のお菓子が出てきます。不味くはないのですが、なにしろ甘くて。一日何件か訪問するときには本当に大変です。こちらの人は甘いものが大好き。運動もしないので糖尿病の人が多いそうです。

一年半が過ぎて、真夏もラマダンも2回経験し、気候や風習にやっと慣れてきました。ドバイと言えば、今や世界的な金融国際都市。でも、アラブ人の気位の高さや元遊牧民の本質は変わってないような気がします。最近では観光都市としても有名になってきたようで、一度ドバイへどうぞ。アラブの匂いに触れてみてはいかがですか。

独に入っは

独を楽しむ

ザンゲニーエムデン(安保裕見子)

(昭和56年卒)

大学の第2外国語は迷わずフ

ランス語を選んだ私ですが、2002年、ドイツ企業に転職したことで、ドイツという国が俄かに身近な存在となり、2017年7月からは、ドイツ人の夫と共にドイツで暮らしています。そして現在には私にできる日独貢献として、市民大学でドイツ語での日本語講座を担当しています。

この度「海外だよりを」とのご依頼を受け、そんな日々の経験談を書かせていただこうかとも考えたのですが、今時スマホを2-3回叩けば出て来る類いの話を並べるより、「同窓生がいる」そう、ドイツ行こう」と新幹線ながら飛行機に飛び乗っていたら、続きは現地で、



共に旅をするのは、実に修学旅行以来ローテンプルクにて、右から、長岡さん、出口さん、筆者

長岡(芋縄)恵さんが、出口(木田)佐喜子さんと訪ねて来てくれたことに端を発する瓢箪から駒ならぬ独楽。そして奇しくも「独楽」は、独逸(ドイツ)を楽しむ、と書きますゆえ。

というのか、はい、か、でも、私、私もここに私が突然出て参ります、2018年10月、同級生の

Information

●仲間募集...「金蘭会サロン」

金蘭会サロンは、20代から70代まで幅広い年代の方が集まるディナー会です。年に数回、不定期で開催しております。大手前高校の卒業生はどなたでも参加できますので、お気軽にご連絡ください。連絡先：高木 雅(平成21年卒) TEL: 080-5324-5406 E-mail: rironriron@gmail.com



●仲間募集...「二子玉会(にこたまかい)」

第14回二子玉会(にこたまかい)は10月21日(日)に、二子玉川の豆腐自慢のお店「とうあん」貸切でのランチ会となりました。初参加4名を含む23名の中には兄弟関係もあり、実家が近い、中学校が同じ、趣味や仕事が共通など、初対面でも話題の尽きないひと時でした。二子玉会は、毎年10月の日曜日に開催し、金蘭会に関係する方はどなたでも参加できます。



連絡先：竹村 泉(昭和48年卒) TEL: 080-5448-7848 E-mail: 426izumi-t@e08.itscom.net

●支部会費

年会費は1,000円です。総会案内状同封の年会費払い込み用紙でお支払いをお願いしています。詳しくは、総会案内状に記載しています。なお、終身会費については、現在お取り扱いしていません。

●広告掲載について

本号より広告掲載を復活しました。掲載ご希望の方は下記金蘭会東京支部ホームページまでメール連絡いただければ幸いです。(ご希望多数の場合は抽選) 名刺サイズ1万円。

●金蘭会東京支部ホームページ

<http://www.kinran.tokyo/>

会員登録・支部の最新情報・広告申込・ご意見ご感想ほかお問い合わせも、こちらをお願いします。

編集後記

・今年から本会報の編集長を仰せつかりました昭和56年卒の岡本慎一です。少しでも多くの方に読んでいただけるよう、編集委員共々より良い会報づくりに励んでまいりますので、よろしくお願ひ申し上げます。
・スタイルを一新した第11号から2017年の第24号まで14年の長きに亘り大手前らしいスマートさと温かさを併せ持った素敵な紙面をデザインしてくださった加藤(旧姓 森)啓子さん(昭和46年卒)が昨年12月にご逝去されました。
編集委員一同、加藤さんのご尽力に感謝を捧げ心からご冥福をお祈り致します。

株式会社 内山鑑定事務所
代表取締役社長 内山 真(昭和56年卒)

あなたの資格を活かし社会に貢献しませんか

一級建築士 募集

登録制・業務委託

自然災害による家屋等の被害状況の現地調査及び書類での調査確認業務

広域災害損害調査員

内山鑑定